

V. 懇談会等【共益事業】

(1) 会員懇談会

会員懇談会は、全会員を対象に、大臣や閣僚・国内外の各界有識者等を来賓として招き、時宜にかなったテーマで講演会と懇談会を行っている。例年1月には、同友クラブと合同で新年会員懇談会を開催している。

本年度は、リチウムイオン電池の開発で2019年にノーベル化学賞を受賞された、吉野彰旭化成(株)名誉フェローを招き、「リチウム電池が拓く未来社会」と題して講演いただく予定としていたが、新型コロナウイルス感染症対策のため延期した。

(2) 会員セミナー

会員セミナー(大八木成男委員長・木川眞委員長)は全会員を対象として、会員の知識の向上・知恵の醸成に貢献し、会員の資質向上を図ることにより、本会活動の活性化に寄与することを目的として活動している。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、4～6月のセミナーは中止した。8月に開催した運営委員会において、本年度は、「日本と世界の経済」「国際(外交問題)」等を優先的に取り上げるテーマとすることが決定した。また、感染拡大防止の観点により、新たな試みとしてセミナーのストリーミング配信を行うこととし、8月に田中明彦政策研究大学院大学学長より「パンデミックの米中関係」、9月に越塚登東京大学大学院情報学環学環長・教授より「IoT・AI時代のデータの利活用とイノベーション」について講演をいただいた。

11月以降は対面開催と同時にWEB配信を行う形で、山口廣秀日興リサーチセンター(株)理事長より「試練が続く内外景気の先行き」、熊谷亮丸(株)大和総研専務取締役より「ポストコロナの世界における菅政権の経済政策」、薮中三十二立命館大学客員教授より「アメリカ大統領選挙結果と今後の日本外交の課題」等のテーマで講演をいただいた。

1～2月に開催を予定していた第1339回ならびに第1340回会員セミナーは、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。

このため本年度は5回のセミナー開催となった。各回終了後には、講演録(セミナー通報)を作成し、会員専用ウェブサイトで配信した。

また例年通り、本会の親睦団体である同友クラブメンバーと各地経済同友会会員に案内したが、本年度はWEB配信を取り入れたため、栃木、群馬、埼玉、千葉、新潟、静岡、神戸、岡山、大分、鹿児島各地経済同友会会員から多数の参加を得ることとなり、各地との連携強化につながった。

(3) 産業懇談会

産業懇談会（稲野和利代表世話人・江幡真史代表世話人）は、会員の相互交流、情報交換を目的とし、14グループがそれぞれの世話人および運営委員を中心として、自主運営を行っている。グループ毎に昼食会形式で開催し、メンバーからの話題提供や、さまざまな分野で活躍される外部講師による講演と意見交換を行うことが本来の形である。

本年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、4月から6月の定例会は一斉中止となった。7月以降は各グループの判断により、対面・WEB併用会合、対面のみ会合、WEBのみ会合の形等で順次再開し、会食における感染症対策やWEBを活用した会合開催のノウハウが蓄積されていった。しかし、1月の緊急事態宣言再発令と二度にわたる延長措置もあり、開催の中止は57回に及んだ。毎年恒例の「14グループ合同懇談会」（暑気払い）も中止となり、代わりにグループ個別の懇談会形式をとることとしたが、開催をしたのは4グループに留まった。

また、例年12月に開催する「14グループ世話人会」も中止となる等、活動に大きな制限があった。

一方、WEB会議システムを利用した開催方式が浸透するに連れ、対面形式のみでの会合開催時より参加者が増えるグループも出始め、新たな会合のあり方を探る一年となった。年度末の登録者総数は870名となった。

各グループの活動状況は、以下の通りである。

〔第1火曜グループ〕

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、例会は対面開催3回のみとなった。運営委員会は1回開催した。例会では、メンバーの所属企業・業界の現状や「経営のコツ」といった興味深い視点での話題提供、また外部講師からは、次世代のプリンティング技術である「4Dプリンティングが生み出す未来」等について、幅広いテーマで話題提供・講演と意見交換を行った。運営委員会は3月に開催し、2021年度の運営体制や活動方針について討議・決定した。

〔第1水曜グループ〕

例会を7回、運営委員会を1回開催したが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のためすべてWEB開催となった。例会では、メンバーから主に所属企業・業界のITを活用した先進的な取り組み事例や今後の展望・戦略等について、外部講師からは、建築・書道等の文化的テーマや、日本外交の展望等、幅広いテーマにて話題提供・講演いただき意見交換を行った。運営委員会は12月に開催し、2021年度の活動方針と企画について討議・決定した。

〔第1木曜グループ〕

対面とWEBを交えた例会を7回、運営委員会を1回、懇談会を1回開催した。新型コロナウイルス感染症により6月例会までは休会対応を行ったが、以降は対面とWEBの併用で開催した。例会では、メンバーからの話題提供を基本とし、メンバー自身の事業の紹介や業界の動向と課題等について講演を行った。運営委員会は2月に開催し、2021年度の運営方針や話題提供候補者、2021年度の世話人・運営委員体制について討議・決定した。

〔第2火曜グループ〕

対面とWEBの併用による例会を7回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバーの所属企業・業界の現状と展望について、外部講師からは、コロナ禍によるインバウンドへの影響や、2021年の経済展望等、幅広いテーマで話題提供と意見交換を行った。この他、10月には水陸両用バス乗船の見学会を開催する等、多彩な企画にて親睦を深めた。運営委員会は1月に開催し、2021年度の運営体制と企画等について討議・決定した。なお、4月から6月の例会は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した他、1月例会は、3月に開催を延期した。

〔第2水曜グループ〕

対面開催による例会を5回、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバーから所属企業・業界の現状と展望について、外部講師からは、コロナ禍における病院運営、音楽家としてのプロ意識、留学生のインターンシップへの取り組み等、幅広いテーマで話題提供・講演いただき意見交換を行った。見学会および第2金曜、第3水曜、第4火曜グループとの新年合同懇談会については、新型コロナウイルス感染症の感染状況に鑑み、中止とした。運営委員会は2月に開催し、2021年度の世話人・運営委員体制、企画等について討議・決定した。

〔第2木曜グループ〕

対面とWEBを交えた例会を7回、運営委員会を1回、世話人打ち合わせを2回開催した。4月から6月および2月例会については、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。例会では、メンバーが企業変革をテーマとして話題を提供し、意見交換を行った。外部講師からは、地球と生命の起源と進化、雇用を通じた安全安心なまちづくり、人生に効く脳科学、新型コロナウイルス感染症の基礎と感染対策、能楽から探る日本のイノベーション力とダイバーシティ等の多岐にわたるトピックについて、講演と意見交換を行った。運営委員会は1月に開催し、2021年度の世話人・運営委員体制、企画等について討議・決定した。

〔第2 金曜グループ〕

対面とWEBを交えた例会を8回（見学会1回を含む）、運営委員会を2回開催した。例会では、メンバー自身の事業の紹介や取り組み、新型コロナウイルス感染症の拡大に関連し、臨床試験や今後の消費動向のあり方と経営などについて、外部講師からは、「死」との向き合い方、日本の教育システムやデータ利活用に向けた個人情報保護のあり方、バイデン政権下の東アジア情勢などをテーマに話題提供・講演と意見交換を行った。見学会では完全オンライン開催にて築地本願寺を視察した。運営委員会は2月に開催し、2021年度の運営体制と講師候補を含む運営方針等を討議・決定した。

〔第3 火曜グループ〕

対面とWEBを交えた例会を6回開催、運営委員会を1回開催した。例会では、国際問題、デジタル通貨、禅の取り組みや大河ドラマ主人公の明智光秀、あるいは、メンバー自身の所属する企業・業界の動向等、幅広いテーマで講演と意見交換を行った。新型コロナウイルス感染症対策のため、合計4回の例会を中止し、例年開催している見学会や新年懇談会は開催しなかった。2月に開催した運営委員会では、今後の運営方針と外部講師の講演テーマ、2021年度の運営体制、企画等について討議した。実地での懇談の価値を重視し原則を維持しつつ、緊急事態宣言下での開催形式の変更等柔軟に対応することとした。

〔第3 水曜グループ〕

対面とWEBを交えた例会を8回、運営委員会を2回開催した。例会では、メンバー自身の所属企業・業界の状況や動向等について、外部講師からは、芸術、皇室、経済、国際情勢等幅広いテーマで話題提供・講演と意見交換を行った。例年実施している見学会は、本年度は開催を見送った。また、他グループと交流を深めるために開催している、第2水曜、第2金曜、第4火曜グループとの新年合同懇談会もコロナの感染状況に鑑み、中止とした。7月および3月に開催した運営委員会では、2021年度の運営体制、活動方針、グループ活性化の施策等について討議・決定した。

〔第3 木曜グループ〕

対面とWEBを交えた例会を6回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバー自身の所属企業の取り組みや企業理念について、外部講師からは今後の医療や江戸城天守閣再建の取り組み等、多岐にわたる話題提供・講演と意見交換を行った。見学会ではANAグループの総合トレーニングセンター「ANA Blue Base」を訪問し、訓練の様子を視察し、特別機内食を提供いただいた。また、交流促進のため9月には懇談会を開催した。運営委員会は2月に開催し、2021年度の運営体制、講師候補、見学会先について討議・決定した。

〔第4火曜グループ〕

対面とWEBを交えた例会を8回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。なお、4月から6月、1月の例会については、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。例会では、メンバー自身の所属企業・業界の現状や取り組みについて、また、外部講師からは、アート・マーケットや教育問題等について講演があり、意見交換を行った。見学会は、9月に Inspired. Lab および SAP Experience Center Tokyo を訪問し、オープンイノベーションのためのコラボスペースを見学、その後、懇談会を開催した。運営委員会は2月に開催し、1年間の活動の総括とともに、2021年度の活動計画等について討議・決定した。

〔第4水曜グループ〕

対面とWEBを交えた例会を8回、運営委員会を2回開催した。例会では、新入会メンバーから、自身の所属企業・業界の現状や取り組みについて、外部講師から、世界と日本のゴルフ、世界をリードするAIテックカンパニー、アート・哲学・ウィズコロナ等、幅広い分野での話題提供・意見交換を行った。運営委員会を7月と2月に開催し、新型コロナウイルス感染症を踏まえた運営について討議・決定した。なお、1月例会については、新型コロナウイルス感染症対策のため中止し、例年開催している見学会は開催を見送った。

〔第4木曜グループ〕

対面とWEBを交えた例会を7回、運営委員会を1回開催した。例会では、文化・産業・先端技術をテーマに著名な外部講師を招き、「日本人誕生」の謎に迫るサピエンス日本上陸、AIと共存できる人財・組織、日本のスタートアップのトレンド等について、講演と意見交換を行った。新たな取り組みとして、講師を設けずコロナ等の非連続な社会環境変化への各企業の対応状況の共有や、WEBを併用した例会を実施した。運営委員会は7月に行い、コロナ禍における会合運営や本年度に取り上げるテーマについて検討した。

〔第4金曜グループ〕

対面とWEBを交えた例会を7回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバー自身の所属企業での取り組みや専門分野に関する話題提供を、外部講師からは、アート、デジタルトランスフォーメーション、地球環境問題、経済展望等、幅広いテーマで講演と意見交換を行った。見学会では、ANAグループの総合トレーニングセンター「ANA Blue Base」を訪れた。パイロットや客室乗務員、整備士等、各部門の訓練設備を一か所に集約した最新鋭の訓練施設について見学した。また、メンバー間の交流を深めるため、恒例の忘年懇談会に加え、7月にも懇談会（暑気払い）を実施した。運営委員会は1月に開催し、2021年度の運営委員体制や活動方針等につ

いて討議・決定した。

(4) 経済懇談会

経済懇談会（清水新一郎世話人・園部芳久世話人）は、1997年の発足以来、企業の第一線の経営者（副社長・専務・常務・執行役クラス）を構成メンバーとし、企業経営における実践的な課題について意見交換を行う自主運営の懇談会である。本年度は、5名の新メンバーを含む17名が、10月から3月までの6か月間に定例会合を11回、WEB会議システムも活用しつつ開催した。

第1回会合において、本年度の活動テーマを「ニューノーマルに適応する企業経営と新たな価値創造」と決定した。新型コロナウイルス感染症がもたらした「新しい普通」（New Normal）」は、必ずしも企業に負担だけを強いるものではなく、デジタル化や働き方改革の遅れ等を解消することで生産性の向上を図るとともに、新たなビジネス領域を開拓するチャンスでもあるといった認識の下、委員が交互にニューノーマルにおける所属企業の取り組みについて話題を提供し、質疑応答と自由闊達な意見交換によって議論を深めた。

外部有識者からのヒアリングでは、入山章栄早稲田大学大学院経営管理研究科教授より、「アフターコロナ時代の日本企業イノベーション創出への示唆」の演題の下、イノベーションの創出のための知の探索の重要性等について講演をいただき、活発な意見交換を行った。また、安永雄彦(株)島本パートナーズ取締役会長（浄土真宗本願寺派築地本願寺代表役員宗務長）より、「築地本願寺の経営改革」と題し、社会の構造変化に即した新たな取り組みやコロナ禍で幸せに生きるための条件等について講演をいただいた後、WEB見学会を実施した。

(5) 創発の会

創発の会（河本宏子座長・吉松徹郎座長）は、原則として本会入会后2年以内の会員を対象とし、委員会活動への本格的参画のためのファースト・ステップとなる場を提供している。

本会の理念、先達経営者の気概を幹部会員から新入会員へ伝承するとともに、忌憚のない意見交換を通じて幹部会員を触発し、本会活動全体の活性化につなげることを目的として、1999年1月の発足以来、講演会と懇談会（カクテルパーティー）の二部構成で開催することを恒例としていた。

しかし、本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、従来の形式で開催することは難しい状況となったため、7月に開催した正副座長会議において、あらためて運営方針を検討した。その結果、本年度の活動は、感染拡大状況を見極めながら、創発の会の趣旨を十分に踏まえた上で、都度、開催方法や形式を慎重に検討していくこ

とを確認した。

第1回会合は、9月に開催し、初参加メンバーを中心に自己紹介を行うことにより交流を深めた。第2回目以降の会合では、峰岸真澄副代表幹事より「リクルートの経営」、遠藤信博副代表幹事より「本質に近づき、新たな価値の創造を～After COVID-19, New Normal に向けて～」、栗原美津枝副代表幹事より「多様性への挑戦～監査役、女性起業支援等の経験から～」と題してそれぞれ講演をいただいた。2021年1月および2月に予定していた会合は、緊急事態宣言の発出に伴い延期した。

メンバー同士の交流の場として毎回の会合後に開催してきた懇談会（カクテルパーティー）については、1年を通して開催を見送った。

こうした状況を踏まえ、座長協議の結果、本年度末に修了年限を迎えた75名のメンバーについては、登録期間を1年延長し、2022年3月の修了とすることを決定した。

（6）リーダーシップ・プログラム

リーダーシップ・プログラム（小林喜光委員長）は、社会のリーダーとしても活躍し得る次世代のトップ経営者育成を目的として、会員所属企業の若手役員（主に取締役、執行役員クラスで本会未入会者）を対象に、2003年度から実施している共益事業活動である。

著名な経営者との対話や、参加者間の本音の議論を通して、あるべき経営者像や、政治・経済・社会のあり方、さらにはリーダーシップの本質について深く考え、社業を越えた幅広い視野を持つことを目指すとともに、参加者同士の交流によるネットワークづくりも、重要な目的の一つである。

2019年度までに、合計378名が本プログラムを卒業し、このうち108名が本会へ入会している。本年度で17期目を迎える予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため、本年度はプログラムの実施を見合わせた。

（7）ジュニア・リーダーシップ・プログラム

ジュニア・リーダーシップ・プログラム（立石文雄委員長）は、企業的意思決定ボードのダイバーシティ実現に向けた次期上級幹部の育成を目的としており、会員所属企業の部長クラスを対象に2012年度から実施している共益事業活動である。

毎回の会合には、本会会員を中心とした企業経営者を講師に招き、組織マネジメントや人材育成、ダイバーシティ実現に向けた改革への取り組み等について講演を聞く。質疑応答では、参加者が直面している実際の課題について、講師から具体的等バイスを受け、問題解決に向けて考え抜く力を養うとともに、企業の活性化を牽引するリーダーシップとは何かを学ぶことを目指している。また、活動を通じて参加者同士の交流を図り、企業の垣根を越えたネットワークづくりを行っている。

2019年度までに、合計189名が本プログラムを卒業し、このうち4名が本会へ入会している。本年度で9期目を迎える予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため、本年度はプログラムの実施を見合わせた。